

は優に万を数え、現在も未整理文書の調査が進行中である)のうち、1960年に愛媛大学歴史学研究会が既に調査を行った長持文書3244点を再整理した際の目録である。記録史料の保存は、現在ではアーキビスト・自治体史編さん関係者・歴史研究者などさまざまな立場の者により担われているが、本目録はとすれば看過されがちな地域の主体性、すなわち記録史料を整理保存することは地域住民にとっていかなる意味をもつかについて、現在の最も優れた実践報告であるという意義をもつ。他にも目録本文の記載の正確さなど述べたい点は多々あるが、紙幅の制約のため、ここでは本目録の目次と()で示した若干の補足を以下に掲げることで紹介に代えたい。ごあいさつ 田中家

田中家文書目録刊行にあたって

田中家史料保存委員会

論説

- ・記録遺産の保存と地域文化の継承発展
- ・田中家文書には何が書かれているか—嘉永6年「御廻文寄記録」を素材として—

参考資料

- ・三浦田中家文書を利用した先行研究一覧
- ・『宇和島藩吉田藩漁村経済史料補遺』中の田中家文書一覧
- ・田中家史料保存委員会活動資料
(田中記念館創立趣意書、規約、保存管理規定、宇和島市への陳情書、三浦文化祭展示要領など)
- ・田中家文書調査会の活動について
(規約、参加者一覧)
- ・田中家文書目録
(長持文書—現状及び編年目録とも—、田中九平引継目録一覧)
- ・解説(文書の伝存秩序に留意、現状記録論にも言及)

富善一敏・国立史料館

愛媛県宇和島市三浦田中家文書目録

田中家文書調査会編
愛媛 田中家史料保存委員会発行 1995.8
321p 26cm

本目録は、愛媛大学法文学部史料科菅原ゼミOBを中心に設立された当調査会が、1987年以来整理を行ってきた田中家文書(総点数